

NPO 法人 横浜金沢文化協会 会報

しおさい

2017年3月号

No.43

(春夏発行)

HomePage <https://www.yk-bunka.com> E-Mail ykbunka@gmail.com

紅葉・草紅葉・古代ロマンと歴史を巡るバスツアー ～ 晩秋の箱根・小田原を訪ねる ～

当文化協会主催の今年度のバスツアーは、平成28年11月8日(火)、深まりゆく秋に実施。41名を乗せたバスは、金沢文庫から鎌倉市街を抜け、湘南の海に沿って進み、箱根の仙石原に。会員で色鉛筆画家の川浪舎人氏による「紅葉」の説明を聞き、車窓から赤、黄、褐色の木々の葉を楽しむうちに乙女峠に到着。迎えてくれたのは頭に少し雪をのせた富士山。富士山がきれいに見えるありがたい気分になるのが不思議。つぎに総合文化部の会員・深津米男氏による「北条氏」の説明を聞きながら小田原城に向かい、耐震工事が終了した天守閣を見学。「だるま料理店」で昼食後、秀吉が小田原攻に築いた一夜城(石垣城)跡を散策。見事な石垣が残っており、NHKの大河ドラマの場面を思い出した。本丸物見台からの相模湾の風景もすばらしかった。最後は、金沢区小柴で見つかったアケボノゾウの化石を所蔵する「県立生命の星・地球博物館」。100万年前に金沢に象がいたと思うとワクワク。どこか掘るともっと何か出てくるのではないかとの期待を持ちながら、「鈴廣のかまぼこ」をお土産に夕暮れの金沢に到着。

(橋本藤子)



歴史ウォーク「鐮木清方ゆかりの地を巡る」 美術鑑賞「鎌倉市鐮木清方記念美術館訪問」 ～金沢ゆかりの画家・鐮木清方を知る～

平成28年10月25日(火)、当文化協会主催で「歴史ウォーク」と「美術鑑賞」をセットで実施。

鐮木清方は、金沢八景を描いた歌川広重の作品を見たときから金沢に憧れ、君ヶ崎(国道16号君ヶ崎交差点近辺)に別荘「游心庵」を構え、大正から昭和初期の様子を知ることができる貴重なスケッチをたくさん残した。横浜金沢シティガイド協会のガイドの方々の案内でスケッチに描かれた場所を巡りながら、別荘でくつろぐ清方、称名寺の子ども達など、絵との対比を楽しんだ。

昼食後、バスで鎌倉に向かい、「鎌倉市鐮木清方記念美術館」で学芸員の今西彩子氏に解説をしていただき、清方が描いた美しい日本画を堪能した。(橋本藤子)



初心者向け日本画体験講座 …日本画材で描いて みませんか…

平成29年1月24日(火)、金沢地区センターにて当文化協会主催の「日本画体験講座」を開催。

最初に鎌倉市鐮木清方記念美術館の学芸員・今西彩子氏による「日本画とは一体何か」の解説、武蔵野美術大学の学生さんによる「岩絵の具の使い方」の実技説明があった。

20名の講座参加者は、期待と不安の中、「うまく描けるかしら」と口々にしながら、実技に着手。田舎の風景などのバックの取り方、スイレンなどの花の構図の取り方、水に溶いた岩絵の具の色の濃淡に苦戦しつつも、参加者は各々の思いを筆に込めて描いた。出来上がった作品に「あ～駄目・・・」といいつつ、仕上げの金粉をふりかけて、日本画初体験に満足の様子だった。(川浪舎人)



歴史講演会「貝類群集の変遷から平潟湾の生い立ちを探る」

平成29年2月19日(日)、金沢地区センターにおいて、当文化協会主催の歴史講演会を開催。『貝が語る縄文海進』の著者である松島義章先生に「金沢区の平潟湾の変遷」を語って頂いた。

平潟湾一帯には、夏島貝塚、野島貝塚など多くの貝塚が存在することが考古学で明らかになっている。また縄文時代には海水が増えて海面が高くなる縄文海進や海面が低くなる海退が繰り返されたことも知られている。いっぽう、貝類は種類ごとに干潟や沿岸の底など、生息場所が決まっている。そのため、干潟群集、沿岸砂底群集などのように貝類をグループ化して調べていくと海岸の位置がつかめるとのこと。先生が貝類の分布を調べて作成された1万3千年前から1千5百年前までの平潟湾一帯の海岸線の変遷図が紹介された。その図から、野島が岬だったり、島だったり、半島の先だったりと変化していることがよくわかった。

同様な調査で、鶴岡八幡宮の近くまで鎌倉の海岸線が迫っていたとか、戸塚駅付近まで湾が広がっていたとかも分かったとのことで、驚き

であった。

さらに県立追浜高校敷地のボーリング調査では、世界で2例目となる介形虫というウミホタルの仲間のミイラの化石が発見されたが、これは魚のフンのおかげでミイラ化した貴重な化石資料とのことで、写真でも確認できたことも大きな驚きであった。

先生は、日本国内だけでなくハワイやフィジーなどでも同様の手法で調査をされていて、興味深い内容であったという間の2時間だった。参加者の質問も多く、関心の高さがうかがえた。
(橋本藤子)



講演の松島義章先生



講演会場の様子

「金沢区の伝統産業(小柴の海苔づくり)を知る」の上映会を開催

平成29年1月21日(日)、金沢公会堂多目的室で、「金沢の伝統産業(海苔づくり)を知る」と題して、記録映画「小柴の海苔づくり」の上映会を開催。40年前に埋め立てが始まるまでは、金沢の海岸で盛んであった「海苔づくり」。その様子を知ってもらおうと、金沢区役所と当文化協会の共催、横浜市市史資料室の協力のもと、金沢の子ども達に「海苔づくり教室」を開いている「海苔づくり実行委員会」が中心になって実施。

講師は元横浜市漁業協同組合組合長の小山紀夫氏に依頼。記録映画の鑑賞と解説、パネル写真展で、「小柴の海苔づくり」が浮き彫りになった。約40人の参加で、熱心な質疑応答、パネルを見ての懇談など盛り上がり、「機会があったらもっと多くの人に見てもらおうと良い」との意見をいただいた。

(深津米男)



海苔づくり教室

平成29年2月26日(日)、「海苔づくり教室」を野島青少年研修センターとその前面の公園で開催。金沢区より青少年育成事業として委託を受け、当文化協会会員を中心に結成されている「海苔づくり実行委員会」が毎年この時期に実施。今回は区内の小中学生52名、保護者25名、小学校の先生3名が参加。

快晴、微風という好条件。実行委員19名の指導のもと、参加者は、「①海苔切り、②海苔つけ、③海苔干し」の3工程を体験。子ども達にとって、初めての体験であったが、徐々に手際よくなり作業を終えた。

海苔が乾燥するまでの午前の時間で、「海苔の生態」「海苔づくりの歴史」についてビデオで解説。昼食時には「生海苔入りの味噌汁」を味わった。午後は横濱金澤シティガイド協会のメンバーによる案内で野島公園内の史跡見学などを織り交ぜて展望台まで散策。公園に戻って海苔の乾燥する音を聞き、自分の手で乾し海苔を収穫。それを土産に満足げに帰宅した。
(深津米男)



初心者向け表千家茶道体験講座

…茶の湯を体験しよう…

平成28年9月15日(木)、金沢地区センターで、当文化協会主催の「茶道体験講座」を開催。金沢茶道会の表千家教授・片岡宗暢氏の指導で、「一服のお茶でお客をもてなし、共に楽しみ、その出逢いを大切に、一期一会の世界がそこにある」がテーマの「お茶の心」を体験。

お茶には動作の一つひとつに作法が決められている。



お菓子は膝の前に置いた懐紙の上に乗せ、お茶の前にいただくなど。午前と午後の2クラスで総勢14名の参加があり、全員が「お茶の心」を体験し、至福のひと時を過ごした。(川浪舎人)

お正月用生け花体験講座

当文化協会主催の初心者向け「生け花体験講座」を平成28年12月2日(金)に金沢地区センターで実施。金沢華道会の堀蕙柯氏と山口理泰氏の指導のもと、「正月花」を活けた。お花は高さ、角度などちょっとした扱いで違う印象を受けること、また、水切り、水揚げの方法なども学んだ。日本の伝統文化を伝えていくことの大切さを味わうことのできた貴重な体験でした。(橋本藤子)



生け花

ポストに投稿された『横浜金沢を詠う』俳句・短歌を表彰・展示

金沢区では「俳句短歌ポスト制度」のもと、区内各所にポストを設置し、『横浜金沢を詠う』俳句・短歌を常時受付けている。そして1年を前期・後期に分け、投稿された俳句・短歌から優秀作品を選定し、金沢区長賞、文化協会理事長賞などの表彰を行っている。

平成28年度後期(8月末までの投稿)について選者会議で優秀作品の選定が行われ、平成28年10月27日(木)に区民活動センターにおいて、区長、文化協会理事長、選者、受賞者などが出席のもと、表彰式が行われた。表彰作品と表彰式の出席者一同の写真は、当文化協会のホームページ(<https://www.yk-bunka.com/>)とタウン紙に掲載・公表された。また、平成28年11月1日(火)～11月30日(水)には、区民活動センターの展示

ケースで表彰作品の順次展示が行われ、平成28年12月11日(日)～12月24日(土)には同センターの区民ギャラリーで全表彰作品の一斉展示が行われた。

ポストの設置場所などについては当文化協会のホームページを参照下さい。(野中建吾)



展示ケースで順次展示



区民ギャラリーで一斉展示

秋の「金沢区民俳句大会」を開催

金沢俳句会は春と秋に一般区民にも参加を呼びかけた俳句大会を開催。平成28年10月30日(日)に金沢自然公園で秋の大会を実施。29人の俳句愛好者が集った。午前は金沢自然公園内を吟行。午後は「ののはな館」で句会。各自2句を出句。その後、互選。上位10句の表彰を行った。最後に、金沢俳句会会長のシリーズ俳話「俳句の世界(その19)」があった。互選上位の10句は当文化協会のホームページに掲載。(野中建吾)

秋の金沢区民短歌大会も開催

金沢区民歌人会も春と秋に一般区民にも開かれた短歌大会を開催している。この秋の大会は平成28年11月27日(日)、八景コミュニティハウスに20人の短歌愛好者を集めて実施された。各自、歌を詠み、その後、互選を行い、上位5首の表彰を行った。この上位5首も当文化協会のホームページに掲載。(野中建吾)

金沢区囲碁大会(秋季)を開催 … 各区対抗戦の区予選会として …

金沢区囲碁連盟では、各区囲碁連盟対抗戦の区予選として春と秋に金沢地区センターで金沢区囲碁大会を開催。秋の大会を平成28年10月16日(日)に実施。年々参加者が増え、今回は60名が参加。参加費1,500円、昼食付きで、楽しく一日を過ごせる大会となった。平成27年度には市大会で3位を獲得した実績から、29年度は優勝を目指す。(高橋徳美)



第28回 金沢区民文化祭

(平成28年10月7日~12月18日)

区民の文化・芸術の総合的発表の場として28年間継続してきました「金沢区民文化祭」は「金沢区民の文化遺産」に値するものと考えております。本年は新公会堂建設工事のためステージ部門は区内外の施設での実施となり、苦労もありました。「発表の喜び・見る喜び」とともに「区民の交流の場」として今後も積極的に推進してまいりたいと思います。(三浦正雄)

◇区民の作品展◇ 金沢区民文化祭実行委員会

10月7日(金)~11日(火) 金沢地区センター 体育館

区民および区関係者から公募した絵画・写真・書・俳句・短歌・手工芸作品と区内の小・中学生の作品を展示しました。出展した生徒の家族・友人が来場して、会場には活気が漲り、好評でした。出展者は357人、入場者は約1200人を数えました。また、会場入口では、金沢華道会による大きく美しい「迎え花」が華を添えました。



(野中建吾)

◇吟と舞の祭典◇ 金沢区吟剣詩舞道連盟

10月16日(日) 横浜金沢産業振興センターホール

恒例の金沢八景詩吟詠、剣舞、詩舞、少年少女吟詠、歌謡吟詠コンクール、そして構成番組「神奈川吟詠紀行」まで、楽しい一日となりました。今回の目玉は、小中学生の純粋で可愛い吟詠でした。今後も、継続して吟詠を楽しんで頂きたいです。善意のチャリティー募金を金沢区社会福祉協議会へ贈呈しました。(大川岳要)



◇華道展◇ 金沢華道会

10月9日(日)~10日(月・祝) 金沢地区センター 大会議室

文化祭の華道展は、金沢華道会会員とその門下生の発表の場であり、花を愛する区民の皆様との交流の場です。毎年、作品展示とともに「いけば花体験コーナー」を設けています。今年の見どころは、平成26年の体験コーナーに参加し、いけば花教室に入門した11才の少年の作品が話題になりました。作品展会場入口に会員合作の「迎え花」を展示しました。



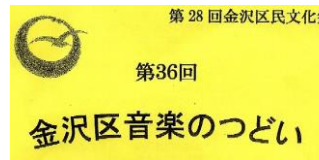
11才の話題作品

(堀 蕙柯)

◇金沢区音楽のつどい◇ 金沢区音楽のつどい運営委員会

10月16日(日) 磯子公会堂

金沢区内外で活動している音楽団体が、区民音楽文化の向上と相互の親睦を図ることを目的とし、年に一度、一堂に会して日頃の練習の成果を発表しました。今回は磯子公会堂での開催のため、練習や本番までの移動がこれまでと異なり、色々心配がありました。しかし、皆さまのご理解・ご協力により、無事に終えることができました。



(宮崎 裕子)

◇金沢三曲演奏会◇ 金沢三曲会

10月30日(日) 磯子公会堂

今回、初めて金沢区を離れ、磯子公会堂での開催となりました。例年通りの古曲から現代曲まで、バラエティに富んだ曲目を演奏。いつもと違う広い会場、舞台への動線等乗り越えて、最後は舞台にずらりと並んだ12人の尺八奏者による合奏で無事終了しました。集客が難しく、地元の有難さを痛感し、1日



も早い公会堂の落成を願っています。

(佐野史瑞子)

◇民謡のつどい◇ 金沢民謡協会

10月9日(日) 磯子公会堂

昨年に続く第2回目の「民謡のつどい」で、11支部から約80名が出演し、日頃の練習成果を発表しました。個人の歌声、団体の合唱、津軽三味線の合奏、舞踊など豊富な演目で、日本全国の民謡が会場いっぱいになりました。磯子という場所



にもかかわらず、大勢の民謡ファンが会場に足を運んでくれました。

(阿部きみえ)

◇小・中学校音楽祭◇ 金沢区小・中学校音楽祭実行委員会

12月4日(日) シーガルホール(横浜市大八景キャンパス)

晴天に恵まれた当日、横浜金沢ロータリークラブ提供の立て看板が横浜市大の正門に設置された。開催が危ぶまれましたが、役員よりも早く、横浜中・高の太鼓に続き、高舟台小・能



見台小・釜利谷中・金沢中の子も達が集まってきた。階段教室もロビーも和気藹藹の空気に包まれた楽しい一日でした。(森川淳子)

◇茶会◇ 金沢茶道会

10月10日(月・祝) 金沢地区センター 和室・ロビー

和室は表千家の田宮宗初氏が担当し、床の間には「和気兆豊年」の軸を掛けました。ロビーは裏千家の田中宗美氏が担当し、床の間には「吾心以秋月」の軸を掛け、籠に秋草を活けました。今回初めてお子様参加の体験コーナーを企画しました。学校の運動会と重なったにもかかわらず、茶会終わり頃には低学年の2名がお茶を点て楽しんで帰られました。(門間宗映)



◇プロムナードコンサート◇ 横浜金沢交響楽団

12月18日(日) 神奈川県立音楽堂

聴きどころはベートーヴェンの交響曲第6番「田園」と神奈川県立音楽堂首席ホルン奏者豊田実加氏を迎え、当団ホルン団員を交えてのヒューブラー作曲「4本のホルンと管弦楽のための協奏曲」。立ち見が出るほどの大盛況な演奏会で、指揮の立石氏の曲目案内に乗せて10代から70代の奏でるオーケストラの響きに観客は聴き入った。(長谷川克己)



区民公募 金沢区美術展

平成28年11月19日(土)～24日(木)の間、金沢区美術協会が主催する区民公募第9回金沢区美術展が能見台地区センターの体育館で開催された。メインテーマは「見る楽しみ」、「描く楽しみ」、「発表する喜び」。サブテーマは「見る人と描く人の思いをよせて集う金沢区民の美術展」とした。

今年も昨年に引き続き、ギャラリートークを実施。出品者が自分の描いた絵について、動機・意図・思い入れなどを語り、それについて参加者が意見を述べ、双方の交流を図る事が出来た。

応募点数130点(一般44点、会員86点)。来場者数1,300人。ギャラリートーク実施者17名・参加者約60名。
(山口武夫)



クリスマス・チャリティー・コンサート

平成28年12月18日(日)、港南区民文化センター「ひまわりの郷」ホールで、金沢吹奏楽団のクリスマス・チャリティー・コンサートが開催された。当文化協会の国際交流事業として、また区内の障害者の皆様を支援する目的で始めたコンサートが今年で15回を迎えた。当日は多くのお客様に来場頂いた。創立55周年を迎える「かなすい」初めての「満員御礼」で、例年よりも増してハート・ウォーミングなクリスマス・コンサートとなった。

文化協会は、例年に習って、コンサートに区内在住の外国人を約30人招待した。
(寺田早苗)



書き初めコーナーで書道指導

平成29年1月14日(土)、冬の風物詩である“どんど焼き”が海の公園の砂浜で開催された。毎年、書き初めコーナー、願い事コーナー、模擬店などが設けられているが、本年は当文化協会に書き初めコーナーでの指導要請があり、書道協会の会員がその役に当たった。砂浜に敷いたブルーシートの上で大勢の子ども達書き初めを行い、“どんど焼き”に入れて焚き上げた。(編集委員会)



金沢三曲会の出前教室

金沢三曲会会員の12・1・2月は和楽器体験授業のお手伝い到大忙しです。

平成8年の校長会でのプレゼンテーション後、釜利谷東小と小田小の2校から始まり、20年が経ちました。子ども達の真剣な姿、夢中で取り組む様子に、冬の早朝楽器を持つての訪問の大変さもすべて消し飛びます。沢山の元気をもらい、今後も出前を続けます。(佐野史瑞子)



お三味線はこうしてね、ああしてね、うーん…難しい…

パネル展に参加

当文化協会は、平成28年10月3日(月)から8日(土)までの間、金沢区民活動センター主催の「パネル展」に参加した。同センターの展示ギャラリーに、文化協会のスローガンを墨書し、恒例の行事・活動(海苔づくり教室・塩田による塩づくり・吟と舞の祭典・小中学校音楽祭・華道展・茶会)のカラー写真を貼付したパネルを掲示した。あわせて、当協会会報「しおさい」(第42号)を配架して広報に努めた。

(野中建吾)



旧伊藤博文別邸での秋のお茶会

平成28年11月6日(日)は海からの秋風が爽やかで、金沢茶道会の「秋のお茶会」にピタリであった。席主は裏千家の長沼宗房氏。床には裏千家15代・鵬雲斎大宗匠筆の「富貴是吉祥」を掛け、花は照葉と初嵐の椿を活けた。お菓子は「夏みかんの上用饅頭」を使った。



伊藤博文公誕生の地・萩で当時栽培に力を入れた「夏みかん」にちなんだもの。夏みかんの羊羹やジャムなどが美味しく有名。趣向を凝らした席で、140名のお客様に楽しんで頂いた。(門間宗映)

金沢自然公園の梅林で「梅見の茶会」

祝日の平成29年2月11日(土)、金沢茶道会では金沢自然公園うきうき林内の梅林で「梅見の茶会」を行った。大寒波で、9・10日は雪が無い、昨年のように雪で中止かと心配した。しかし、当日は晴天で、美しい青空に紅梅・白梅が映えて、「梅見の茶会」に相応しい1日となり、200余名のお客様に梅をあしらった上用饅頭と抹茶を楽しんで頂いた。カメラマンも大勢集まり、美しい梅と私達の呈茶の舞台を撮っていた。



また、J・COMのテレビ取材を受け、放映された。(門間宗映)

南国忌の会

南国忌の会(会長・浅田次郎)が主催、当文化協会などの後援のもと、文豪・直木三十五を偲ぶ南国忌が平成29年2月19日(日)、長昌寺で開催された。正井風玄師の供茶、石澤彰文住職による法要を経て、講演会となった。元文芸春秋出版部長・岡崎正隆氏を迎え、「直木賞ミニ物語」と題し、直木賞受賞者186人の半数以上の作家を誕生させた経過や作家との裏話など、通常では知り得ない貴重なお話を伺った。その後、墓参を行い、懇親会へと続いた。35回を迎え、盛況であった。



講演を行う岡崎正隆氏

(鈴木秀幸)

長浜検疫3館の案内と顕微鏡教室の開催

野口英世細菌検査室保存会では、平成28年8月20日(土)、区内長浜にある長浜(横浜)検疫所の公開に



合わせ検疫資料館、長浜ホール、細菌検査室の検疫3館について、建物と内部の展示物の説明を行った。



検疫資料館の外観と内部

同時に、長浜ホールの多目的室で小学生を対象にミクロの世界を顕微鏡で探る体験教室を開催した。

(田中常義)

ペットボトルで手作り顕微鏡

野口英世細菌検査室保存会では、平成28年11月12日(土)、並木コミュニティハウスで「ペットボトルを用いた手作り顕微鏡」講座を開催。キャップの付いたペットボトル、直径2mmのビーズ玉、8mm四方の透明プラスチック板、両面テープ、セロテープが材料。工具は直径2mmのドリルとピンセット。これで小学1、2年生の参加者全員が15分で倍率200倍



の顕微鏡を作り上げた。鳥の羽根、花粉などを観察。本物の顕微鏡で見比べて、自分で作った顕微鏡が十分に役立つことを確かめた。(田中常義)

新春の区庁舎展示スペースを飾る

新築なった区役所1階のエレベータホール前に「区庁舎展示スペース」が開設され、平成28年11月から利用が始まった。平成29年の新春を迎えての最初の展示が平成29年1月10日(火)から行われ、当協会会員・高橋清溪氏の書と同・荘シルビア氏の生け花が20日(金)までの10日間、展示された。新春にふさわしい書と花のコラボレーションは圧巻。



中央に書、左右に生け花の展示

多くの来庁者の足を止めていた。(編集委員会)

金沢三曲会研究会

平成29年2月4日(土)、金沢公会堂多目的室で金沢三曲会の第76回研究会を開催。自分一人で弾いていてもつかめない様々なことが、合奏することで弾き込み、相手パートとの合い口や曲調の表現など、とても勉強になります。

金沢三曲会は、2月と6月に研究会を行い、会員相互に研鑽を積むことで、レパートリーも増え、曲のジャンルも広がっていきます。「1対1の合奏ができる」と他地区の三曲会の方々から羨ましがられています!!
(佐野史瑞子)



金沢区美術協会の新春絵画展

金沢区美術協会では平成29年1月8日(日)～21日(土)において、区役所2階の区民ギャラリーで「新春絵画展」を開催。美術協会としては、新築された区庁舎内に開設された区民ギャラリーで初めての展示会であった。今回の展示は前期(8日～15日:協会主催のスケッチ会・研修会での作品24点)と後期(15日～21日:自由画題での作品35点)の2期に分けて行った。それぞれに趣があり、小作品ながらも見ごたえのある新春展となった。



(山口武夫)

箏アンサンブル金沢桐韻会の箏勉強会



平成28年11月13日(日)、金沢公会堂多目的室で、箏アンサンブル金沢桐韻会の勉強会が行われた。

希望曲を申告し、合同曲に自由にエントリーし、会場での曲の解説も自分たちで行った。ゲストにフルートの松井先生をお招きし、『春の海』を合奏していただいた。

「すぐ目の前に先輩後輩、お客様が…」「緊張のあまりお辞儀を忘れました」「まるでライブのよう!」「憧れの“春の海”を合奏できて幸せでした」などの感想。にぎやかで楽しい1日でした。
(佐野史瑞子)



朗読教室「たちばな」発表会

平成28年10月30日(日)、八景コミュニティハウス文化祭において朗読教室「たちばな」の第5回発表会を行った。オープニングは、歌舞伎十八番、二代目市川團十郎作「外郎売」を全員で朗読。太宰治の童話、落語「まんじゅうこわい」、宮澤賢治の「よだかの星」、毎年読み進めている夏目漱石の「夢十夜」の「第六夜」「第七夜」と進行。最後に三大狂言の一つである「菅原伝授手習鑑」から「寺子屋」の一部を義太夫の素語りで朗読。約30名の方々が最後まで熱心に聴いて下さいました。

(橘 有美)



ホームページだより④

～新鮮さと魅力があつてのホームページ～



ホームページで最初に表示されるページは、住まいでいうと玄関。玄関がいつ訪問しても同じに見えると、誰もがこのホームページは変化なしとみなし、他のページまでも見なくなってしまう。当文化協会のホームページの玄関も同じ写真が長く掲載され、「いつ訪問しても同じに見える」になっていた。これから抜け出すために、平成29年1月から文化行事や文化財、風景など四季折々の区内の姿を捉えた魅力ある作品の提供を当協会の会員である「横浜金沢写真連盟」から定期的な受け、それを掲載することを始めている。その結果、当文化協会のホームページの玄関は月ごとに装いを変えるようになりました。
(金間誠一)

朗読への誘い「宮澤賢治と夏目漱石の世界」

平成29年1月15日(日)、金沢区役所の地域振興課と金沢図書館の主催で、金沢地区センター大会議室にて、橘有美の一人語りを…。約80名の方にお越し頂き、宮澤賢治「雪渡」「永訣の朝」、夏目漱石の「夢十夜」、金沢区の瀬戸神社が舞台で仇討の「放下僧」、葉祥明の「母親というものは」などを聴いて頂きました。人それぞれ好みの作品が違って、いろいろな作品を読んだことで、皆さんに喜んで頂けて、良かったです。

(橘 有美)



文化協会行事予定(平成29年4月~9月 日程順)

多くの行事は開催日が近づくと文化協会のホームページに詳細案内が掲載されます。また、前回の様子などもあります。

4月2日(日) 生涯現役かなざわ会 25周年記念 三遊亭円楽講演会 磯子公会堂	(774) 6074
4月16日(日) 金沢煎茶道会 慈善茶会 三溪園 鶴翔閣	(774) 7077
4月28日(金)~5月7日(日) 色鉛筆画展 神奈川県立フラワーセンター大船植物園	090 5435 7300
4月下旬 俳句短歌ポスト投稿表彰(春期) 金沢区民活動センター	(781) 5044
4月下旬 金沢区民短歌大会(春期) 八景コミュニティハウス	(781) 5044
4月下旬 金沢茶道会 ぼたん祭り茶会 旧伊藤博文金沢別邸	(782) 8079
5月6日(土) 金沢煎茶道会 煎茶野点席 旧川合玉堂邸園庭	(774) 7077
5月9日(火)~14日(日) 横浜金沢写真連盟 公募写真展 横浜市民ギャラリー	(789) 3128
5月14日(日) 金沢区囲碁大会 金沢地区センター	(780) 3199
5月20日(土) 発足15周年記念瀬戸神社居 合道奉納演武会 瀬戸神社	(783) 2298

5月21日(日) 金沢民謡協会 おさらい会 ヴェルクよこすか	(785) 3506
6月4日(日) 金沢区民俳句大会 金沢地区センター	(781) 5044
6月14日(水)~20日(火) 金沢区書道協会展 磯子区民文化センター杉田劇場ギャラリー	(701) 4964
6月中旬 金沢茶道会 あじさい祭茶会 八景島客船ターミナル	(782) 8079
6月16日(金) ひまわり会 35周年記念コンサート 磯子区民文化センター杉田劇場	(783) 6440
6月20日(火)~25日(日) 金沢区美術協会展 金沢公会堂 多目的室	(783) 5299
7月16日(日) 金沢吹奏楽団 定期演奏会 逗子文化プラザ「なぎさホール」	090 7189 5298
7月 塩づくり教室と塩の道を歩く	(782) 0705
7月 塩田による塩づくり	(782) 0705
8月 長浜の檢疫3館案内と顕微鏡教室 長浜ホールなど	(775) 1612

*数字は問い合わせ先の電話番号で、固定電話は市外局番045を省略。

顧問一覧(50音順 敬称略)

小幡 正雄 片岡 順一 木村 久義 国吉 一夫
黒川 澄夫 黒川 勝 佐野 和史 篠原 豪
鈴木 節夫 高井 祿郎 高橋 徳美 竹野内 猛
松崎 淳 松野 宗純 松本 純 谷田部 孝一

賛助会員一覧(50音順)

- ・赤ひげ小川笙船法要会
- ・一般社団法人金沢区三師会
- ・医療法人社団景翠会金沢病院グループ
- ・医療法人社団湘南太陽会鳥居泌尿器科・内科
- ・植周造園株式会社
- ・御菓子司横浜紅谷
- ・金沢区旅館組合
- ・株式会社光洋
- ・幸栄印刷株式会社

計 報

枇杷橋 和廣 様(絵画部)
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会報編集委員

編集長	金間誠一		
編集委員	阿部孝三	内園一廣	遠藤勝美
	川浪舎人	佐野静子	塚本眞砂子
	野中建吾	宮崎裕子	廣瀬喜美江

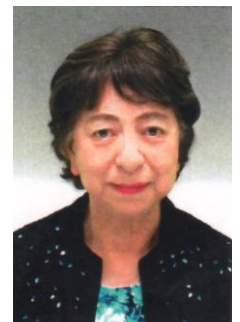
個人会員紹介

華道部 山口 理泰



横浜生まれ、横浜育ちです。華道との出会いは57年前になります。20代の時、小学校時代の同級生3人と近くの教場に通いました。師範をいただき、師のお手伝いから私の「花の道」が始まりました。師・門下生・友人・家族の我慢と忍耐のお陰で私の現在があり、本当に感謝の気持ちで一杯です。

現在、金沢華道会会長、古流松應会横浜支部長。指導歴は42年になります。出逢いを大切に、「花の道」の楽しさを一人でも多くの方にお伝えしていきたいと思っております。



編集後記

この度、会報の横書き・カラー化を図り、題字もそれに適したものに変更しました。カラー化で写真が映えるなど、読みやすい紙面になったと思います。

会報編集委員会にパソコンが使えるメンバーが集められ、紙面のレイアウトまでを自分達で行い、印刷のみを外注とする体制作りを進め、1年をかけてここに至りました。その結果、本号の印刷外注費は従来の約2/5となりました。今後ともこの体制が維持できますよう、皆様のご理解・ご支援をお願い致します。(金間誠一)